

四半期報告書

(第138期第3四半期)

自 平成25年10月1日

至 平成25年12月31日

横河電機株式会社

東京都武蔵野市中町二丁目9番32号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4) ライツプランの内容	7
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(6) 大株主の状況	7
(7) 議決権の状況	8

2 役員の状況

8

第4 経理の状況

9

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	12
四半期連結包括利益計算書	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14

2 その他

17

第二部 提出会社の保証会社等の情報

17

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月10日
【四半期会計期間】	第138期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	横河電機株式会社
【英訳名】	Yokogawa Electric Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西島 剛志
【本店の所在の場所】	東京都武蔵野市中町二丁目9番32号
【電話番号】	(0422) 52-5530
【事務連絡者氏名】	コーポレート・コミュニケーション室長 川中 定
【最寄りの連絡場所】	東京都武蔵野市中町二丁目9番32号
【電話番号】	(0422) 52-5530
【事務連絡者氏名】	コーポレート・コミュニケーション室長 川中 定
【縦覧に供する場所】	横河電機株式会社中部支店 (愛知県名古屋市熱田区一番三丁目5番19号) 横河電機株式会社関西支社 (大阪府大阪市北区梅田二丁目4番9号 ブリーゼタワー内) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第137期 第3四半期 連結累計期間	第138期 第3四半期 連結累計期間	第137期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高（百万円）	241,974	270,257	347,899
経常利益（百万円）	8,938	14,024	18,002
四半期（当期）純利益（百万円）	8,224	6,969	14,688
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	13,142	21,458	26,758
純資産額（百万円）	159,507	190,892	172,396
総資産額（百万円）	360,664	393,242	379,931
1株当たり四半期（当期）純利益金額 （円）	31.93	27.06	57.03
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	43.15	47.17	44.32
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	6,552	15,898	17,433
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△6,093	△9,194	△7,502
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△3,629	△10,142	△8,034
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	51,268	59,200	58,826

回次	第137期 第3四半期 連結会計期間	第138期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額（円）	1.73	1.87

- （注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれていません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）における世界経済は、米国経済の緩やかな回復や欧州経済の持ち直しが見られたものの、中国、インドなど新興国経済の鈍化といった懸念材料は未だ払拭されず、総じて回復傾向にありながらもそのペースは非常に緩やかなものとどまりました。日本経済も一連の経済財政政策等への期待感から進行した円高の是正・株高が継続し、個人消費、企業業績、製造業の設備投資がそれぞれ上向くなど緩やかな回復傾向となりましたが、輸入原材料価格やエネルギーコストの上昇、消費税増税による消費減退への懸念等もあり、先行きの見方は依然慎重なままという状況です。

このような事業環境において、当社グループは中期経営計画“Evolution 2015”に基づき、エネルギー関連投資の拡大を背景に堅調に推移している制御事業を中心に、積極的な事業活動を展開しました。その結果、円安の影響もあり、売上高、営業利益とも前年同期と比べ増加しました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結売上高は2,702億57百万円（前年同期比 282億83百万円増）となり、営業利益は142億42百万円（前年同期比 41億21百万円増）、経常利益は140億24百万円（前年同期比 50億85百万円増）となりました。

四半期純利益は69億69百万円（前年同期比 12億54百万円減）となりましたが、これは前年同期に遊休資産の売却に関する特別利益を計上したためです。

セグメント別の概況は以下のとおりです。

制御事業

制御事業は、日本市場では厳しい状況が続いたものの、海外市場ではエネルギー関連市場での需要が引き続き堅調でした。これらの結果、同事業の売上高、営業利益は、前年同期と比べ増加しました。

当第3四半期連結累計期間における同事業の売上高は2,349億64百万円（前年同期比 284億82百万円増）、営業利益は136億65百万円（前年同期比 30億41百万円増）となりました。

計測機器事業

当第3四半期連結累計期間における同事業の売上高は199億8百万円（前年同期比 5億67百万円減）、営業利益は4億13百万円（前年同期は 4億0百万円の営業損失）となりました。

その他事業

当第3四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は153億85百万円（前年同期比 3億68百万円増）、営業利益は1億63百万円（前年同期は 1億2百万円の営業損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末に比べ3億73百万円増加し、592億0百万円となりました。なお、当第3四半期連結累計期間の各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益131億76百万円に対し、プラス要因である減価償却費101億18百万円、売上債権の減少162億64百万円等と、マイナス要因である賞与引当金の減少70億24百万円、たな卸資産の増加55億3百万円、仕入債務の減少63億98百万円、法人税等の支払額又は還付額57億75百万円等の結果、158億98百万円の収入（前年同期比 93億46百万円の収入増）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による55億62百万円、無形固定資産の取得による35億82百万円の支出等の結果、91億94百万円の支出（前年同期比 31億0百万円の支出増）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による新規調達100億円、コマーシャル・ペーパーの純増加60億円、短期借入金の純増加30億4百万円に対し、長期借入金の返済262億10百万円、配当金の支払28億32百万円等により、101億42百万円の支出（前年同期比 65億13百万円の支出増）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題に重要な変更はなく、また、新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針を決定する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりです。

会社の支配に関する基本方針

① 会社の支配に関する基本方針の内容

当社は、公開会社として当社株式の自由な売買が認められている以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式を売却するか否かは、最終的には株主の皆様への判断に委ねられるべきものと考えております。また、当社株式に対する大規模な買付行為があった場合においても、これが当社の企業価値の向上及び株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。

しかしながら、当社株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、株主や会社に対して、買付に係る提案内容や代替案を検討するための十分な時間や情報を与えないもの、買付目的や買付後の経営方針等に鑑み、当社の企業価値・株主共同の利益に対する侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に株式等の売却を事実上強要するおそれのあるもの、買付条件が当社の企業価値・株主共同の利益に鑑み不十分又は不相当であるもの等、企業価値・株主共同の利益に資さないものも想定されます。

このような大規模な買付行為や買付提案を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えております。

以上のことから、当社は、大規模買付者が現れた場合は、当該大規模買付者の買付条件並びに買付後の経営方針及び事業計画等の提案内容を、取締役会の意見及び代替案も含めて、当社の株主の皆様が検討するための手続及び十分な時間を確保することが重要であると考えております。

② 会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

i. 企業理念及び中期経営方針

当社グループは、企業理念を「YOKOGAWAは 計測と制御と情報をテーマに より豊かな人間社会の実現に貢献する YOKOGAWA人は良き市民であり 勇気をもった開拓者であれ」と定めています。この理念のもとに、企業活動を健全に継続し、企業価値を最大化する「健全で利益ある経営」をするとともに、お客様のビジネス視点で、お客様の付加価値向上につながるソリューションサービスを提供することで、地球環境保全、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

ii. コーポレート・ガバナンスの強化

当社グループでは、健全で持続的な成長を確保し、株主の皆様をはじめとするステークホルダーからの社会的信頼に応えていくことを企業経営の基本的使命と位置づけており、「健全で利益ある経営」を実現するための重要施策として、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

当社取締役会では、当社グループの事業に精通した取締役と、独立性の高い社外取締役による審議を通して、意思決定の迅速性と透明性を高めています。また、社外監査役を含む監査役による監査を通して、取締役の職務執行の適法性、効率性、合理性、意思決定プロセスの妥当性等を厳正に監視・検証し、経営に対する監査機能の充実に努めています。

当社グループでは、コンプライアンスの基本原則を『YOKOGAWAグループ企業行動規範』として定めており、取締役が率先して企業倫理の遵守と浸透にあたっています。また、財務報告の信頼性の確保及び意思決定の適正性の確保などを含めた『YOKOGAWAグループ内部統制システム』を定めており、当社グループの業務が適正かつ効率的に実施されることを確保するための内部統制システムを整備しています。

内部統制システムの有効性については、内部監査担当部署が年間計画に基づき内部監査を実施し、重要な事項について取締役会及び監査役に報告しています。

③ 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み<買収防衛策>

当社は、平成23年5月13日開催の取締役会において、「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）の

継続導入の件」(以下「本プラン」といいます。)について決議し、平成23年6月24日開催の当社第135回定時株主総会において議案として上程し、承認をいただいております。本プランの概要は以下のとおりです。

なお、本プランの全文は、インターネット上の当社ホームページの平成23年5月13日付プレスリリース「当社株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)の継続導入について」(当社ホームページアドレス：<http://www.yokogawa.co.jp/cp/ir/pdf/2011/20110513baishubouei.pdf>)に掲載しております。

i 本プランの概要

(A) 本プランの発動に係る手続の設定

本プランは、当社の株券等に対する買付その他これに類似する行為又はその提案(以下「買付等」といいます。)が行われる場合に、買付等を行う者又はその提案者(以下併せて「買付者等」といいます。)に対し、事前に当該買付者等及び当該買付等に関する情報の提供を求め、当該買付等についての情報収集・検討等を行う期間を確保し、また、株主の皆様当社取締役会の計画や代替案等を提示するなど、買付者等との交渉等を行う場合の手続を定めています。

(B) 新株予約権の無償割当ての実施

買付者等の行為が、当社の企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である場合には、当社は、当社取締役会決議により、当社取締役会が定める一定の日における最終の株主名簿に記載された当社以外の株主に対し、その保有する株式1株につき、買付者等が原則として権利行使できない新株予約権1個の割合で、新株予約権(以下「本新株予約権」といいます。)を無償で割り当てます。本新株予約権1個当たりの目的となる当社株式の数は1株とします。

(C) 取締役会の恣意的判断を排除するための独立委員会の設置

本プランの発動等の運用に当たり、取締役会の恣意的判断を排除し、当社の企業価値・株主共同の利益を確保するために、公正・客観的な判断を行い、取締役会に本プランの発動の是非を勧告する機関として、独立性の高い社外取締役3名及び社外有識者4名の計7名の下記記載の委員により構成される独立委員会を設置しています。

<独立委員会の委員>

社外取締役 棚橋 康郎(元新日鉄ソリューションズ(株)代表取締役会長)

社外取締役 勝俣 宣夫(丸紅(株)相談役)

社外取締役 浦野 光人(株)ニチレイ 相談役)

社外有識者 若杉 敬明(元東京経済大学経営学部 教授)

社外有識者 中村 直人(中村・角田・松本法律事務所パートナー弁護士)

社外有識者 北川 哲雄(青山学院大学大学院国際マネジメント研究科 教授)

社外有識者 矢野 朝水(日本コープ共済生活協同組合連合会 理事長)

(D) 本新株予約権の行使及び当社による本新株予約権の取得

本プランに従って本新株予約権の無償割当てがなされ、買付者等以外の株主の皆様により本新株予約権が行使された場合、又は当社による本新株予約権の取得と引き換えに、買付者等以外の株主の皆様に対して当社株式が交付された場合、当該買付者等の有する当社株式の議決権割合は約2分の1まで希釈化される可能性があります。

ii 本プランの発動に係る手続

(A) 対象となる買付等

当社は、本プランに基づき、下記①又は②に該当する買付等がなされたときに、本プランに定める手続に従い本新株予約権の無償割当てを実施いたします。

① 当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付等

② 当社が発行者である株券等について、公開買付けに係る株券等の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け

(B) 買付者等に対する情報提供の要求

当社は、上記ii(A)に定める買付等を行う買付者等に対し、当社の定める書式による買付説明書(以下「買付説明書」といいます。)及び買付者等の買付内容の検討に必要な情報(以下「本必要情報」といいます。)に関する質問書を、速やかに送付します。

買付者等には、買付等の実行に先立ち、原則として、買付説明書及び本必要情報を、買付者等が当社からこれら送付資料を受領した日から起算して、10営業日以内に当社取締役会宛てに提出していただきます。

当社取締役会から買付説明書及び本必要情報を送付された独立委員会は、買付者等から提出された買付説明書又は本必要情報が買付内容の検討を行う情報として不十分であると判断した場合、買付者等から当初提供された買付説明書を受領した日から起算して60日を上限として独立委員会が指定する期間(以下「情報提供期間」といいます。)内に、本必要情報を追加提出することを、買付者等に対して要請でき、買付者等はこれに従うものとします。但し、独立委員会は、情報提供期間満了日においても、本必要情報が不十分であると判断する場合、必要に応じて更に30日を上限として情報提供期間を延長できるものとします。

独立委員会は、買付者等から提出された買付説明書及び本必要情報が買付内容の検討を行うのに必要十分な情報であると判断した場合又は情報提供期間が満了した場合、買付者等に情報提供が完了した旨の通知(以下「情報提供

完了通知」といいます。)を発送するとともに、当社は買付者等に情報提供完了通知を発送した旨を速やかに株主に
対し情報開示します。

(C) 情報提供完了通知発送後の独立委員会による検討及び判断

独立委員会は、情報提供完了通知の発送後60日を上限として、当社取締役会に対して、買付者等の買付等の内容
に対する意見及びその根拠資料、代替案その他独立委員会が適宜必要と認める情報・資料等を提供するよう要求
します。

独立委員会は、買付者等及び当社取締役会から提供された情報を受領してから、最長60日間を上限として、買付者
等の買付等の内容の検討、買付者等と当社取締役会の事業計画等に関する情報収集・比較検討等及び当社取締役会
の提供する代替案の検討を行います。

独立委員会は、当該買付者等による買付等が本プラン発動要件のうち(a)本プランに定める手続を遵守しない買付
等である場合に該当する場合、又は、上記検討の結果、本プラン発動要件のうち(b)当社の企業価値・株主共同
の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である場合、(c)強圧的二段階買付、(d)買付等の条件が
中長期的な当社の企業価値との比較において不十分又は不適当な買付等である場合のいずれか1つの要件に該当し、
本プランに基づく新株予約権の無償割当ての実施が相当であると判断した場合、当社取締役会に対し、本新株予約権
の無償割当てを実施すべき旨の勧告を行います。(b)～(d)の場合、独立委員会は、株主総会の決議を得ることが相当
であると判断するときは、新株予約権の無償割当ての実施に関して事前に株主総会の承認を得るべき旨の留保を付す
ことができます。

当社取締役会は、独立委員会の上記勧告を最大限尊重して本新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等に関する
会社法上の機関としての決議を行うものとします。

iii 本プランの合理性

(A) 買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上の
ための買収防衛策に関する指針」の定める三原則を完全に充足しています。

(B) 株主意思を重視するものであること(サンセット条項)

本プランの有効期間は、平成26年3月期に関する定時株主総会の終結の時までの3年間といたします。また、有効
期間の満了前であっても、株主総会又は取締役会の決議によって本プランを廃止することができます。

(C) 独立性の高い社外取締役等の判断の重視と情報開示

取締役の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために、本プランの発動及び不発動等の運用に際しての実質的な判断
を客観的に行う機関として、独立委員会を設置しております。

実際に当社株式に対して買付等がなされた場合には、独立委員会が、本プランに基づく独立委員会規則に従い、
当該買付等が当社の企業価値・株主共同の利益を毀損するか否か等について取締役会への勧告を行い、当社取締役会
はその判断を最大限尊重して本新株予約権無償割当ての実施又は不実施等に関する会社法上の機関としての決議を
行います。このように、独立委員会によって、取締役が恣意的に本プランの発動を行うことのないよう、厳しく監視
するとともに、独立委員会の判断の概要については株主の皆様へ情報開示するものであり、当社の企業価値・株主
共同の利益に資するべく本プランの透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

(D) 合理的な客観的要件の設定

本プランは、合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による
恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しています。

(E) 当社取締役の任期が1年であること

当社は、当社取締役の任期を1年としており、本プランの有効期間中であっても、毎年の当社取締役の選任を通じ
て、本プランについて、株主の皆様のご意向を反映させることが可能となります。

(F) 第三者専門家の意見の取得

独立委員会は、当社の費用で、独立した第三者(ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コン
サルタントその他の専門家等を含みます。)の助言を得ることができることとしています。これにより、独立委員会
による判断の公正さ・客観性がより強く担保される仕組みとしております。

(G) デッドハンド型やスロー・ハンド型の買収防衛策でないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会によりいつでも廃止することができるもの
とされており、新しい株主構成のもとで選任された取締役で構成される取締役会によって、本プランを廃止するこ
とが可能です。従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、
発動を阻止できない買収防衛策)ではありません。また、当社は、取締役任期を1年とし、期差任期制を採用して
いないため、本プランはスロー・ハンド型(取締役の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止する
のに時間がかかる買収防衛策)でもありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の研究開発の金額は次のとおりです。

制御事業	156億4百万円	(前年同期比 1億47百万円増)
計測機器事業	23億54百万円	(前年同期比 1億16百万円減)
その他事業	6億73百万円	(前年同期比 0百万円増)
合計	186億32百万円	(前年同期比 30百万円増)

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

① 経営成績に重要な影響を与える要因について

全社売上高に占める制御事業の売上高の割合が高まっていることから、同事業の受注高・売上高に影響を与えるプラントの新設や更新需要の動向は、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因のひとつです。

また、同事業の外貨建て売上高及び営業利益が増加してきていることから、これらを円に換算する際の影響度が大きくなっています。従って、外貨建て売上高を主に構成する、米ドル、ユーロ、アジア通貨、中東通貨等の円に対する為替の変動も当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因のひとつとなっています。

② 経営戦略の現状と見通し

当社グループは、制御事業でグローバルNo.1カンパニーになることを中長期的な目標に掲げ、その実現へのファーストステップとして、2015年度までに達成すべき成果とその戦略をまとめた中期経営計画“Evolution 2015”を策定し、平成23年11月に発表しました。

本計画では、計測と制御による顧客の課題解決型のソリューションサービスを提供する Global Solutions and Service Companyとして制御事業の成長戦略を推進するとともに、ヘッドクォーターのグローバル化や生産体制の見直しといったビジネス構造改革を実行してまいります。これにより、2015年度には連結売上高4,000億円、連結売上高営業利益率10%、1株当たり当期純利益100円を達成し、これに併せて財務体質の健全化を図ってまいります。

平成25年度の制御事業の市場は、新興国のエネルギー需要の高まりや北米でのシェールガス開発の増加などを背景に、電力、天然ガス、石油、再生可能エネルギーなどのエネルギー関連市場を中心に、堅調な伸びを見せる見通しです。これら高い成長が見込まれる市場向けに“Evolution 2015”で策定した成長戦略を推進してまいります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

① 資金調達、流動性管理

当社グループは、資金調達における安全性、資金効率の確保及び調達コストの抑制を図ることを基本方針とし、資金調達を実施しています。また、総額500億円のコミットメントライン契約により、財務の安全性と資金効率を確保しています。なお、当第3四半期連結会計期間末のコミットメントラインの使用残高は、47億19百万円です。

当第3四半期連結累計期間は、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合算したフリー・キャッシュフローが、前年同期に比べ62億45百万円増加し、67億4百万円となりました。

② 資産、負債、純資産

当第3四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産は、前連結会計年度末との比較において、以下のとおりとなりました。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は3,932億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ133億10百万円増加しました。たな卸資産が77億79百万円、投資有価証券が71億67百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が37億79百万円減少したことが主な要因です。

負債合計は2,023億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ51億85百万円減少しました。コマーシャル・ペーパーが60億円、長期借入金が98億77百万円、その他流動負債が92億48百万円増加した一方、短期借入金が220億63百万円、賞与引当金が67億1百万円減少したことが主な要因です。

純資産は1,908億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ184億96百万円増加しました。利益剰余金が42億68百万円、その他有価証券評価差額金が52億80百万円、為替換算調整勘定が80億2百万円増加したことが主な要因です。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、制御事業グローバルNo.1カンパニーになるため、中期経営計画“Evolution 2015”で策定した制御事業を中心とする成長戦略を推進するとともに、ヘッドクォーターのグローバル化や生産体制の見直しといったビジネス構造改革などの各施策を着実に実行することにより財務体質の健全化を図っております。平成25年度は、この“Evolution 2015”の目標を達成する上で極めて重要な年となります。目標達成に向けて求められる大きな成長と収益性改善の基礎を作り上げるために、最適なグローバル体制の構築や変化する日本市場への対応、製品開発効率の向上やコスト競争力の強化などの課題に取り組んでまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	600,000,000
計	600,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	268,624,510	268,624,510	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	268,624,510	268,624,510	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	—	268,624	—	43,401	—	36,350

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は、第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

①【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 11,081,800	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 257,320,300	2,573,203	—
単元未満株式	普通株式 222,410	—	—
発行済株式総数	268,624,510	—	—
総株主の議決権	—	2,573,203	—

②【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（％）
横河電機株式会社	東京都武蔵野市 中町二丁目9-32	11,081,800	—	11,081,800	4.13
計	—	11,081,800	—	11,081,800	4.13

（注）当第3四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は、11,084,296株です。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は以下のとおりです。

退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
監査役		西堀 利	平成25年10月28日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しています。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しています。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	59,111	60,320
受取手形及び売掛金	120,679	116,899
商品及び製品	15,860	18,171
仕掛品	7,524	12,590
原材料及び貯蔵品	11,412	11,815
その他	15,929	16,599
貸倒引当金	△3,828	△4,188
流動資産合計	226,689	232,209
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	47,836	48,621
その他（純額）	31,971	33,349
有形固定資産合計	79,807	81,970
無形固定資産		
ソフトウェア	20,795	19,761
その他	6,290	6,521
無形固定資産合計	27,086	26,283
投資その他の資産		
投資有価証券	35,873	43,041
その他	11,021	10,095
貸倒引当金	△546	△356
投資その他の資産合計	46,347	52,779
固定資産合計	153,241	161,033
資産合計	379,931	393,242

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	29,240	26,891
短期借入金	34,255	12,192
コマーシャル・ペーパー	—	6,000
未払金	8,980	7,752
未払法人税等	3,132	3,195
賞与引当金	12,893	6,191
その他	46,468	55,717
流動負債合計	134,970	117,940
固定負債		
長期借入金	64,342	74,219
退職給付引当金	2,872	3,557
その他	5,349	6,632
固定負債合計	72,564	84,409
負債合計	207,535	202,349
純資産の部		
株主資本		
資本金	43,401	43,401
資本剰余金	50,344	50,344
利益剰余金	90,960	95,229
自己株式	△11,007	△11,013
株主資本合計	173,698	177,961
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,576	10,856
繰延ヘッジ損益	116	△134
年金負債調整額	△837	△1,021
為替換算調整勘定	△10,163	△2,160
その他の包括利益累計額合計	△5,308	7,538
少数株主持分	4,006	5,392
純資産合計	172,396	190,892
負債純資産合計	379,931	393,242

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	241,974	270,257
売上原価	142,655	158,889
売上総利益	99,319	111,368
販売費及び一般管理費	89,197	97,125
営業利益	10,121	14,242
営業外収益		
受取利息	200	309
受取配当金	425	527
為替差益	166	1,037
持分法による投資利益	246	113
その他	582	847
営業外収益合計	1,621	2,835
営業外費用		
支払利息	1,665	1,623
その他	1,138	1,430
営業外費用合計	2,803	3,053
経常利益	8,938	14,024
特別利益		
固定資産売却益	3,932	90
投資有価証券売却益	99	110
特別利益合計	4,032	201
特別損失		
固定資産売却損	4	76
固定資産除却損	110	173
減損損失	864	122
投資有価証券評価損	27	7
事業構造改善費用	—	669
特別損失合計	1,007	1,048
税金等調整前四半期純利益	11,964	13,176
法人税、住民税及び事業税	3,232	5,268
法人税等調整額	△1	△169
法人税等合計	3,231	5,099
少数株主損益調整前四半期純利益	8,732	8,077
少数株主利益	508	1,107
四半期純利益	8,224	6,969

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,732	8,077
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,284	5,302
繰延ヘッジ損益	△21	△251
年金負債調整額	△36	△184
為替換算調整勘定	3,171	8,473
持分法適用会社に対する持分相当額	12	40
その他の包括利益合計	4,410	13,381
四半期包括利益	13,142	21,458
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,454	19,817
少数株主に係る四半期包括利益	687	1,641

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	11,964	13,176
減価償却費	10,147	10,118
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	130	△207
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△9,446	△7,024
投資有価証券売却損益 (△は益)	△99	△110
減損損失	864	122
売上債権の増減額 (△は増加)	12,207	16,264
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,581	△5,503
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6,520	△6,398
その他	△2,447	869
小計	11,217	21,306
利息及び配当金の受取額	1,511	1,713
利息の支払額	△1,419	△1,345
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△4,756	△5,775
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,552	15,898
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,587	△580
定期預金の払戻による収入	3,438	92
有形固定資産の取得による支出	△6,072	△5,562
有形固定資産の売却による収入	4,300	416
無形固定資産の取得による支出	△3,840	△3,582
子会社株式及び出資金の取得による支出	△578	△606
その他	246	629
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,093	△9,194
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,075	3,004
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	—	6,000
長期借入れによる収入	2,000	10,000
長期借入金の返済による支出	△3,907	△26,210
配当金の支払額	△2,451	△2,832
その他	△345	△103
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,629	△10,142
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,047	3,812
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,123	373
現金及び現金同等物の期首残高	53,429	58,826
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△38	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 51,268	※ 59,200

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
現金及び預金勘定	52,756百万円	60,320百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△1,488	△1,120
現金及び現金同等物	51,268	59,200

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,287	5.00	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金
平成24年11月6日 取締役会	普通株式	1,287	5.00	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,287	5.00	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	1,545	6.00	平成25年9月30日	平成25年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	制御	計測機器	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	206,482	20,476	15,016	241,974	—	241,974
セグメント間の内部売上高又は 振替高	563	4,355	516	5,435	△5,435	—
計	207,045	24,831	15,532	247,409	△5,435	241,974
セグメント利益又は損失(△)	10,624	△400	△102	10,121	—	10,121

- (注) 1. 報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は損失の数値です。
2. 調整額 △5,435百万円はセグメント間取引消去額です。

- II 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	制御	計測機器	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	234,964	19,908	15,385	270,257	—	270,257
セグメント間の内部売上高又は 振替高	215	4,748	574	5,538	△5,538	—
計	235,180	24,657	15,959	275,796	△5,538	270,257
セグメント利益	13,665	413	163	14,242	—	14,242

- (注) 1. 報告セグメントの利益は、営業利益の数値です。
2. 調整額 △5,538百万円はセグメント間取引消去額です。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	31円93銭	27円6銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	8,224	6,969
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	8,224	6,969
普通株式の期中平均株式数(株)	257,545,513	257,542,727

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額……………1,545百万円
- (ロ) 1株当たりの金額……………6円00銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成25年12月6日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月6日

横河電機株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三澤 幸之助 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡辺 雅子 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 弘幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている横河電機株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、横河電機株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。